

部落解放研究

第35回兵庫県集会

社会的排除を克服し、ともに生きる社会を築こう
—「狭山事件」から51年。半世紀という時間の重さをかみしめ、一日も早い石川一雄さんの無罪を—

開催日 2014年11月22日(土) 9:50～17:45

※映画上映 16:00～17:45

会場 **ピフレホール 他**

(JR新長田駅、神戸市営地下鉄新長田駅下車すぐ)

主催 **部落解放研究第35回兵庫県集会実行委員会**

部落解放同盟兵庫県連合会／部落解放兵庫県民共闘会議／日本労働組合総連合会兵庫県連合会／兵庫人権啓発企業連絡会／同和問題にとりくむ兵庫県宗教教団連絡会議／障害者問題を考える兵庫県連絡会議／兵庫部落出身教職員会の会(礎友会)／兵庫県在日外国人教育研究協議会／兵庫県教職員組合／公益財団法人神戸学生青年センター／一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所

参加費 **3,000円** (討議資料・報告書などを含む)

記念
講演

内田 樹

10時20分～11時50分 ■ピフレホール【大ホール】

(神戸女学院大学名誉教授／凱風館館長)

演題：「共生する作法」

◇講師プロフィール：うちだ・たつる

1950年東京生まれ。東京大学文学部仏文科卒業。東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程中退。1996年より神戸女学院大学文学部総合文化学科教授。2011年定年退職。同年、神戸市に武道修業と哲学研究のための学塾「凱風館」を開設。専門はフランス現代思想、武道論、教育論、映画論など。

著書：『ためらいの倫理学』(冬弓舎／角川文庫)、『レヴィナスと愛の現象学』(せりか書房／文春文庫)、『先生はえらい』(ちくまプリマー新書)、『下流志向』(講談社文庫)、『街場の憂国論』(晶文社)、『一神教と国家』(中田考との共著、集英社新書)ほか、多数。

『私家版・ユダヤ文化論』(文春新書)で第六回小林秀雄賞、『日本辺境論』(新潮新書)で2010年度新書大賞、文筆活動全般について2011年に第三回伊丹十三賞を受賞。



映画上映 (16時00分～17時45分)

ある精肉店のはなし

(2013年／日本／108分)

■監督：瀧瀬あや ■プロデューサー：本橋成一

■製作：やしほ映画社／ポレポレタイムス社

■スケジュール

9:50 オープニング

▶ 神戸朝鮮高級学校生徒による演奏／朝鮮高校生によるアピール

「高校授業料無償化」から朝鮮学校だけが除外されて4年。国連人権委の勧告にもかかわらず、事態は改善されないままです。在日として民族の誇りを大切にしながら学ぶ朝鮮高校の生徒たちに、思いを語っていただきます。

10:00 主催者あいさつ／来賓紹介

10:20 記念講演 ▶10:20～11:50

「共生する作法」

講師：内田樹（神戸女学院大学名誉教授・凱風館館長／哲学研究者、思想家、武道家）

会場：ピフレホール【大ホール】

12:00 昼食／分科会場へ移動

同時
開催

隣保館マルシェイベント『被差別部落に息づく食文化』

【詳細は4面】

12:00～12:50に「油かす入りだんご汁」（伊丹市立人権啓発センター・ふらっと）と「油かす飯」（上の島総合センター）をご試食いただけます。



先着順／当日朝、受付にて整理券配布

●兵庫県隣保館連絡協議会主催

12:50 分科会 ▶12:50～15:50

16:00 映画上映 ▶16:00～17:45

「ある精肉店のはなし」

■監督：瀬瀬あや ■プロデューサー：本橋成一
■製作：やしほ映画社／ポレポレタイムス社

牛の飼育から屠畜解体まで、いのちが輝いている、前代未聞の優しいドキュメンタリー。

—— 鎌田慧（ルポライター）

大阪府貝塚市で精肉店を営む北出一家のドキュメンタリー。家業を継いで7代目となる兄弟の心にあるのは被差別部落ゆえのいわれなき差別を受けてきた父の姿でした。差別のない社会にしたいと、地域の仲間とともに部落解放運動に参加するなかでいつしか自分たちの意識も変化し、地域や家族も変わっていきます。いのちを食べて人は生きる。「生」の本質を見続けてきた家族の記録。ぜひこの機会をお見逃しなく！

■会場：ピフレホール【大ホール】



17:45 終了

1 地域課題の解決法は地域の中にある

◇ひきこもり支援から見た地域福祉の可能性
—ひきこもり者の力を地域づくりへ—

報告者：菊池まゆみ
(秋田県藤里町社会福祉協議会常務理事兼上席事務局長)

ひきこもりのパワーを町おこしに生かすために行われた「ひきこもり実態調査」。地域住民を巻き込みながら奮闘を続けてきた藤里町社会福祉協議会と、ひきこもり当事者の5年間について報告していただきます。

◇映画『ある精肉店のはなし』の話 (仮題)
報告者：額額あや (『ある精肉店のはなし』映画監督)

額額監督は「いのちを食べて人は生きる」という主題を見つめながら、必然として部落問題に向き合ってきました。7代にわたり家業を受け継いできた家族とともに歩んだ、映画完成までの道のりを報告していただきます。

ピフレホール【大ホール】

2 人権教育の現状と課題

◇部落問題をどう教えるか
報告者：石元清英

(これからの部落問題学習プログラム作成研究会)

2002年に特措法が終了してから、12年が過ぎました。それまで同和教育としてとりまかれてきた部落問題学習は、人権問題学習へと移行し、部落問題学習がとりまかれる機会は年を追うごとに少なくなってきました。また、部落問題をどう教えていいのかかわからないという若い教員も増えてきているといわれます。そんな中、ひょうご部落解放・人権研究所では新たに「部落問題学習」のための教員向けの教材研究を始めました。

これからの部落問題学習をどのように進めていくか、ともに考えます。

新長田勤労市民センター【講習室1】

3 調査に見る差別の実態 —調査結果をどう活かすのか

◇兵庫県「人権に関する県民意識調査」調査結果から
報告者：神原文子 (神戸学院大学教授)

兵庫県人権意識調査は「今後の効果的な人権に関する施策を検討するための基礎資料とすること」を目的に5年に1度行われています。調査を人権が尊重されるまちづくりにどう活かすのか—調査委員のおひとりでもある神原先生にご提言いただきます。

◇「今日の被差別部落におけるひとり親家族の生活実態調査」から
報告者：宮前千雅子 (神戸市外国語大学他非常勤講師)

ひとり親家族の親と子どもたちが安心して生活するためにはなにが必要か—。2011年から2012年にかけて実施した実態調査のアンケート調査、インタビュー調査から、被差別部落のひとり親家族が抱える課題を明らかにします。

新長田勤労市民センター【講習室2】

4 社会的責任と人権

◇ホワイトリボン
—男性が男性による女性への暴力について考える意義—
報告者：吉野太郎 (関西学院大学教員)

「ホワイトリボンキャンペーン (WRC)」とは、女性に対する暴力をなくすために、男性が主体となってとりくむ世界的な運動のことで。男性の啓発と意識変革には何が必要か、ともに考えます。

◇企業の社会的責任とは？—山善における人権啓発の取り組み
報告者：鶴井祥広 (株式会社山善人事部人権啓発室室長)

企業がめざす社会的公正・倫理になかった活動とは、具体的にはどのようなことなのでしょう。近年、耳にすることが多くなったCSR。企業の人権啓発のとりくみと、その効果について報告していただきます。

ピフレホール【会議室A】

5 法律や条例を施策に活かす

◇障害者差別解消法—その意義と問題点
報告者：金政玉

(明石市福祉部福祉総務課障害者施策担当課長)

昨年成立した「障害者差別解消法」。この法律によって障害者のすべての社会的障壁が取り払われ、障害を理由とする差別は解消されるのでしょうか。今年から県内障害者施策の先進地である明石市で働き始めた金政玉さんに、自身の体験も踏まえて報告していただきます。

◇「篠山市人権尊重のあたたかいまちづくり条例」について
報告者：宮脇典行 (篠山市人権推進課長)

2012年12月、篠山市は「命の尊厳や人権が尊重され、すべての人が幸せを実感できるあたたかいまちをつくりあげるため」条例を制定しました。この条例をもとにした篠山市のとりくみについて報告していただきます。

ピフレホール【クラフト室】

6 靴の街ながたと在日コリアン 【定員 20名】

◇講演 (12:50 ~ 13:50)
講師：高祐二 (兵庫朝鮮関係研究会)

◇フィールドワーク (14:00 ~ 15:50)

案内：金信鏞 (神戸コリア教育文化センター代表)

神戸のマッチ産業は、第一次世界大戦終結 (1918年) 後、衰退に向かいます。時期を前後してゴム産業が活況を呈し、マッチ工場の経営者の多くがゴム履物産業へ転換していきました。1910年の韓国併合後、職を求めて日本へ渡る朝鮮人が増加し、ゴム履物工場でも、朝鮮人労働者が増えて行きました。「靴の街ながた」の形成史とともに、長田に多く住む在日コリアンの歴史をたどります。
(※事前申し込みが必要です)



長田南小学校に設置された朝鮮人学校校名碑

事前
申込

新長田勤労市民センター【講習室3】

■参加申し込み方法

申込期限
11月14日
(金)

- 開催期日
- 会場
- 参加費
- 申込方法

2014年11月22日(土)
9:50～17:45 (映画上映 16:00～17:45)

ピフレホール／新長田勤労市民センター

3,000円 (討議資料・報告書などを含む)

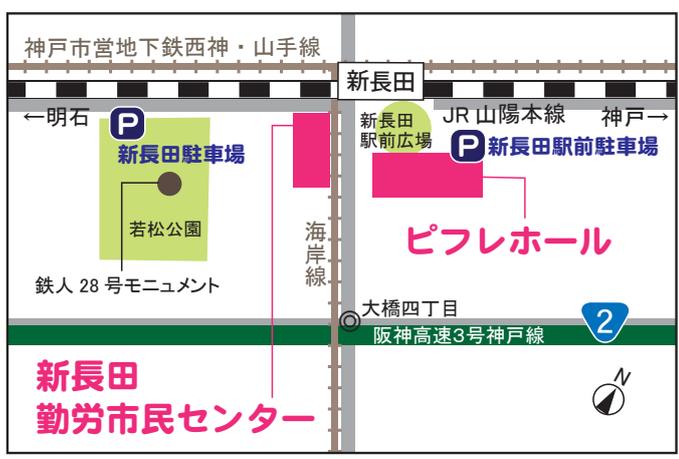
- ①参加のお申込みは、ひょうご部落解放・人権研究所が受け付けます。
- ②別紙「参加申込書」に必要事項を記入の上、FAX または郵送にてお送りください。
なお、ご記入いただきました個人情報、研究集会運営上の目的以外には使用いたしません。
- ③申込書の到着、参加費の振込みが確認できたところから参加券を送付いたします。
- ④手話通訳・要約筆記をご希望の方は、10月31日までにお申し込み下さい。
- ⑤第6分科会はお申し込みが必要です。別紙「参加申込書」でお申し込み下さい。(先着順)

- 参加費振込先

【銀行の場合】
三井住友銀行兵庫県庁出張所
普通預金口座番号 3113470
(社) ひょうご部落解放・人権研究所

【郵便局の場合】
郵便振替
口座番号 01110-0-82179
(加入者名) 県研実行委員会

会場へのアクセス



■ピフレホール

⇒ JR 新長田駅／神戸市営地下鉄新長田駅 南側すぐ
〒653-0038 神戸市長田区若松町4丁目2-15
ピフレ新長田3階
【電話】078-621-1120

■新長田勤労市民センター

⇒ JR 新長田駅／神戸市営地下鉄新長田駅 南側すぐ
〒653-0038 神戸市長田区若松町5丁目5-1
【電話】078-643-2431

P 駐車場のご案内

- 新長田駅前駐車場 (JR新長田駅前広場地下)
- 新長田駐車場 (若松公園地下)

お問い合わせ

一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所 県研実行委員会担当
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281

隣保館マルシェイベント『被差別部落に息づく食文化』 ピフレホール【料理教室】

兵庫県内には88館もの隣保館があります。日本の縮図と呼ばれるほど、さまざまな特徴をもつ兵庫県。それぞれの地域の部落に、食や伝統工芸など、たくさんの文化が息づいています。それらの文化を一堂に集め、地域の交流をはかるため、兵隣協が主催する「隣保館マルシェ」の企画が進行中です。今年はイベントを兵庫県集会と同一会場で開催し、その一部をご紹介します。

- ◇部落の食文化体験 (試食) 12:00～12:50
※数量に限りがあるため、当日朝、受付にて先着順で整理券をお配りします。
- ◇部落の文化試論 12:50～
講師: 太田恭治 (アトリエ西濱主宰・花園大学非常勤講師)
- ◇展示: 県内隣保館の講習事業から



兵庫県隣保館連絡協議会主催